

成城大学学園祭を訪れて

11月2日成城大学学園祭を訪れました。明和町は平成26年10月に成城大学の学長さんほか3名をお招きして、明和町と成城大学の間で人的・物的資源と知的資産を活用し、相互の幅広い連携、交流関係を深め、豊かな地域社会の発展と人材育成に寄与することを目的に、連携に関する協定書の締結が行われました。

当時は恩田前町長と成城大学の油井前学長との間で協定が交わされました。私は議長という立場でオブザーバーとして調印式に立ち会いました。



平成26年10月に結ばれた成城大学との連携協定式の模様



写真：向かって後方左が油井学園長（前学長）、向かって後方右が戸部学長
手前女性は成城大学学生(梨っ娘)の方々 於：学長室にて



小渕優子元経産相

この成城大学ですが、卒業生に群馬県の政治家である、あの小渕優子さん 元産業経済相がおります。



松本耕司元県会議長

また、もっと身近な政治家では館林市の松本耕司氏 群馬県議会議員（元県議会議長）がおります。

そして、成城大学の学生による明和町探訪が始まりました。普段から住み慣れている景色に私たちは何も感じなくなっておりますが、東京世田谷のお嬢様学校の学生には明和町が新鮮に映るようです。そして平成27年2月8日には「明和町の町の人々が元気になる提案」と題して学生のアイデアのプレゼンテーションが町関係者・区長さんなどの80人という大勢の前で発表されました。どれもこれも若さあふれるアイデアの数々に感心をいたしました。中でも感心をしたのは

1. 空き家を利用したカフェの提案
2. SNS(パソコンを使った町の情報発信)の提案
3. 町民誰も知らなかった桜並木の御衣黄(ぎょいこう)桜の存在

の3つでした。御衣黄桜とは、4月下旬頃に緑色の花を咲かせる。花が開いたときには緑色であるが、次第に緑色は薄れて黄緑色から黄色になり、やがて中心部が筋状に赤くなる桜で非常に珍しい品種であります。学生の皆様は、この桜が大変珍しい上に縁結び神社などに多いことや、花言葉が「真実の愛」であることから、恋愛成就の桜として大々的に売り出したらという提案でした。



写真上：平成27年2月 プレゼンテーションした成城大学学生さん

どれも素晴らしい提案でありこの提案をどのように行政施策に結びつけるか？が明和町の課題であります。

またその後も、成城大学の学生さん達は明和町で梨っ娘（なしっこ）として活躍戴いており、その研究成果にも大いに期待をしているところであります。

そんな成城大学(成城学園)のキャンパスを一度訪問する必要性を感じ今回実現した次第であります。

成城学園学内はきれいに整備されており、私も思わず学生時代の雰囲気にもノスタルジーを感じてしまいそうな、懐かしい風景が多々ありました。その中に、「明和町の未来を考える会」が、群馬県明和町をPRしておりました。



写真上：成城大学で明和町のむかし話を語りべとして紹介する、「明和町の未来を考える会」の活躍



写真上：成城学園内風景

どれをとっても素晴らしい光景がそこにはありました。大学生の若い、柔らかい頭で出したアイデアはその活用方法次第では無限の可能性を秘めております。今後も連携を生かして、この明和町を大胆に元気な町に変貌させることが出来たら素晴らしいと思っております。

平成28年 1 1 月 2 5 日

明和町長 富塚もとすけ